

4年2組

 365日の紙ヒコーキ
 ～より長く、より遠くへ～


「飛ばないときもある。だからこそ、おもしろい！」

この言葉は、インドのインターナショナルスクールに、紙ヒコーキの魅力を伝える動画づくりの中で子どもたちから出てきた言葉です。丁寧に作っても飛ばないときがある紙ヒコーキ。「これはよくできた！」と思って投げたら思いのほか飛ばない紙ヒコーキ。しかし、「なぜ飛ばないのか？」を考え、調整し、何度も何度も諦めずに挑戦すると、とてもよく飛ぶ瞬間がやってきます。この時の嬉しさは計り知れません。

子どもたちから「飛ばないときもある。だからこそ、おもしろい！」という言葉聞いたとき、「たくましさ」を感じました。課題に立ち向かい前に踏み出す姿。これは、将来役に立つ「力」だと思います。

以下、最後の参観日で発表した「紙ヒコーキからの学び」の一部です。

紙ヒコーキづくりでは、作り方を見て折る子や、自分でオリジナルの紙ヒコーキを作る子がいました。紙ヒコーキは自由に作って遊ぶものだと思います。細かなすき間などに気をつけながら作る紙ヒコーキは、「細かいところにも気をつけるきれいな心」に繋がってくると思います。紙ヒコーキの学習は、私たちに社会で役立つ学びを運んできてくれました。なので、これからも私は紙ヒコーキの学習を生かしていきたいです。

「？」に答える学習を乗せて、紙ヒコーキはやってきました。紙ヒコーキは折るのが大変なので、すぐによく飛びません。しかし、うまく飛んだときに感じる嬉しさは最高です。紙ヒコーキは日常でできる学習です。紙ヒコーキ用の紙（バガス紙）には、サトウキビの搾りかすが使われています。また、紙ヒコーキは子どもの遊びではなく、紙だけでだれでも簡単に追究するのにぴったりです。そして、紙ヒコーキはどうしたらもっとよく飛ぶだろうと工夫ができます。工夫をすることで「新しい発見」ができるのです。

私は、紙ヒコーキの学習を通して「諦めない力」がついたと思います。紙ヒコーキは、がんばって作っても、飛ばないことのほうが多いです。でも、「次は、どう工夫したらもっと飛ぶのだろう」と、自分たちで追究して、「考える力」もついたと思います。自分で折った紙ヒコーキが飛ぶと、達成感があります。紙ヒコーキが飛ぶことは、当たり前じゃないことが分かりました。「紙ヒコーキは、飛ばないからこそ面白い」本当にその通りだと思います。

